

2023年 4月 7日

2022年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人フードバンクTAMA

代表者・役職名 氏名 神山治之・理事長

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

コロナ禍における年金生活者など生活困難世帯への食支援

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

満身に食事がとれない子どもたちが存在するという状況を改善するため、有志が集まり2016年6月に設立総会を開催し、同年9月に東京都より法人格を取得。日野市、八王子市、立川市、昭島市等の東京多摩地域の行政、社会福祉協議会や子ども食堂と連携し企業や個人から寄付を頂いた食品を児童福祉施設や子ども食堂、また、子どものいる貧困家庭に直接提供を始めました。なお、会員数は22名。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

食品ロスの削減に取り組むとともに、コロナ禍や物価高の影響で生活困窮状態にある子育て家庭、高齢者、児童等に食品を提供する事業を行うことにより、共生社会実現のために寄与することを目標としています。なお、食品は、食品関連企業様や個人の方々からの寄贈、また、フードドライブの実施による寄贈(年間で約180トン)で集めることができました。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

今般の新型コロナウイルス禍で生活困窮者が急増している。中でも国民年金だけに生活費をまかなっている高齢者家庭やひとり親家庭は、かなりの影響を受けている。そのような背景のもと、立川市、昭島市、日野市、八王子市のフードパントリー事業を主軸とした国民年金受給者への支援事業と立川市、昭島市、府中市等の社会福祉協議会や子ども食堂が推進するフードパントリー事業への当フードバンクによる後方支援を実施しました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれ

た直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

本フードバンクも6年目に入り、社会的認知も高まったことにより企業等からの食品寄贈も増え、また、食品支援要請も増えてきました。

- ・立川市・多摩市:年間食品約8キロを詰めたダンボール4,905世帯に提供しました。
- ・日野市:2022年4月~2023年3月にかけて2,252世帯に食品を提供しました。
- ・児童福祉施設・子ども食堂等への食料支援:997施設(延べ)、合計76,045キロの食品を配布。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

2022年度の取り組みは御蔭さまで大成功に終わることができました。引き続き児童養護施設、子ども食堂、ひとり親家庭への支援を展開してまいります。新型コロナウイルスや物価高の影響が長引くことが最も懸念されます。このような状況下において生活困窮に陥っている家庭がますます増えていることです。幸いにも企業や個人からの食品受贈は安定しているため、食品提供は安定して実施しています。ただし、大量の食品をストックする倉庫家賃が当フードバンクの負荷がかかっている状況のため、いかに財政的に安定させるのが最も大きな課題となっています。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、「必ず」、別途、ご提供ください。

